



クレロデンドルム クマツヅラ科  
*Rotheca myricoides* (Hochst.) Steane & Mabb.

# 名古屋大学博物館友の会 NUM 友の会ニュースレター No.71 2023 年夏号

## 2022 年度名古屋大学博物館友の会会計報告

(2022. 4. 1~2023. 3. 31)

1. 収入		円
前年度より繰り越し	752,382	
会費 (2022 年度分)	60,500	
会費 (2023 年度分)	219,000	
収入合計	1,031,882	
2. 支出		
郵送代 (ニュースレター発送等)	178,092	
謝金 (ボランティア補助 3 名)	9,000	
カレンダー作成補助	32,804	
事務経費 (ニュースレター印刷、事務用品購入等)	110,699	
支出合計	330,595	
3. 残金		
2023 年度繰越	701,287	

### ■■ 報告に寄せて「Artist Earth」発行決定 ■■

2022 年度もコロナ禍が続いたため、コンサートなどの会員特典イベントを開催することができませんでした。そこで、イベントの代わりに会員の皆様楽しんでいただけるものを事務局で検討した結果、ニュースレターの連載から「Artist Earth」をまとめた冊子を発行することにしました。完成後は会員の皆様にお届けしたいと思います。

### サークル刊行物 補助のお知らせ

サークルで冊子等の印刷物を発行する場合、友の会会費から補助金をお出しします。詳細は友の会事務局にご相談ください。  
Eメール: hakubututomo@gmail.com

### 寄付のお礼



シロバナブラシノキ フトモモ科  
*Callistemon salignus*

友の会の会員の方から博物館にご寄付をいただきました。ありがとうございます。よりよい展示活動のために活用させていただきます。

東海林先生、ボタニカルアート(植物画)を描く喜びを与え、ボタニカルアートサークルを牽引くださり、ありがとうございました! 若原静映

ボタニカルアートサークルは東海林富子先生を講師としてお招きし、2007 年にスタートしました。「自身が描きたいと感じる植物を描くこと、その植物をよく観察してありのままを描くこと」を根源に、延べ 400 人を超えるメンバーを丁寧に指導・育成し、ボタニカルアートを描くことの喜びと楽しみ、感動をたくさん与えてくださいました。

この度、東海林先生は 2023 年 7 月をもって本サークル講師を引退されることになりましたが、先生が全力で取り組まれたボタニカルアートの普及とボタニカルアート愛の軌跡は、山田栄利子先生へと継承されます。

東海林先生が長きにわたりご指導くださったこと、サークルメンバー一同、心より感謝申し上げます。そして、山田先生、本サークルでのご指導をよろしくお願いいたします。

足立先生



東海林先生

友の会から感謝状の贈呈

山田先生



東海林先生

東海林先生から山田先生へ…  
花束から一輪のバラを手渡し、バトンを繋ぐ

## 万葉の花 その9

### ナシ

三矢保永

もみちば 黄葉の にほひは 繁し しげ 然れども 妻梨の 木を つまなし  
た お か ざ 手折り挿頭さむ

作者不詳 万葉集卷十 2188

大意 黄葉（もみじ）の美しい色づきには、いろいろあるが、妻のいない独り身の私は、（あまり目立たない）黄葉した梨の枝を手折って、それを挿頭（かざし）にしましょう。

注 “梨”と“無し”をかけた用法。ここでは、花が咲いている梨ではなく、黄葉している梨を詠んでいます。この歌は、さる人の宴で、黄葉を詠んだ五つの歌群の三番目の歌で、前歌の“妹が袖巻く→愛おしい人の袖を枕にする”に、あえて対抗するような戯れ心があり、このような機知こそが、雅宴の場では、もてはやされたようです。枕草子では、梨の花の不遇な扱いを嘆いているような記述があります。“梨の花、よにすさまじきものにて、近うもてなさず、はかなき文つけなどだにせず、愛敬後れたる人の顔などを見ては、たとひに言ふも、…”。当時のナシはニホンヤマナシとされています。写真はアズキナシといい別種です。花の雰囲気はヤマナシに似ていますが、実は小豆のように小さく、赤く熟します。

参考文献：伊藤博 萬葉集釈注



撮影 写真サークル 市枝真木子

## ギャラリートーク報告

### 木曾馬とともに生きる楽しみを皆さんと考えたい

梅村綾子

名古屋大学博物館第29回特別展「岐阜大・名古屋大博物館コラボ展」（会期：2022年10月11日～2023年5月6日）の一コーナーにて、絶滅寸前にあった日本在来馬の木曾馬の復元に最大に貢献した木曾馬「第三春山号」（名古屋大学博物館蔵）を紹介させていただきました。



第三春山号の骨格標本

本展示では、木曾馬を獣医学および社会学の観点から研究する岐阜大学高等研究院の高須正規准教授の協力のもと、未来の木曾馬の利活用

について考える必要があることを紹介し、「木曾馬とは何か」として来場者の期待の声を集めました。集まった意見は、個人が特定できない形で集計・分析し、2023年4月29日に開催した対話型イベント「木曾馬とともに生きる楽しみを考えてみよう～みなさんの声から～」において披露いたしました。本イベントにおいては、参加者らと対話を進める中で新たなキーワードが出現することとなり、現在研究活動の一環としてさらなる調査分析を進めております。

本特別展での取り組みを機に、長野県木曾町との連携も進むこととなりました。2023年7月22日～9月3日の期間中、「きそまち回遊スタンプラリー」が開催されます。開田郷土博物館の「第三春山号」剥製標本に関連し、名古屋大学博物館が所有する「第三春山号」の骨格標本を紹介します。今年の夏は是非木曾町へ足をお運びください。



イベントの様子

## Artist Earth 地球は芸術家 21

### ジャスパー (jasper)

足立 守

ジャスパー (jasper) は熱水起源のチャートのことです。チャートとはシリカ (SiO<sub>2</sub>) を多く (ほとんどが 95%以上) 含む堆積岩の総称です。

日本の古生代や中生代のチャートには、殻や骨格がシリカでできている放射虫という化石が多く含まれるので、放射虫チャート (radiolarian chert) という言葉がよく使われます。化石以外の特徴では、チャート層と泥岩層が交互に堆積してできる層状構造も特徴なので、層状チャートという用語もよく使われます。なお、シリカが 90%以上の火山岩は黒曜石と呼ばれています。シリカが多いチャートや黒曜石は硬くて緻密なので、大昔からいろいろな石器に加工されてきました。

ジャスパーは鉄分を多く含むため鮮やかな赤色 (黄・緑・黒もある) のものが多く、不規則な塊 (かたまり) として見つかります (写真 1、左半分の赤い部分)。一昔前は、ジャスパーを碧玉 (へきぎょく) と表記したこともありましたが、今はほとんど死語になっています。その理由は、ジャスパーには鮮やかな赤色のものが一番多く、青や緑を意味する“碧”という漢字とはマッチしないからです。



写真 1 : 各務原市鷺沼の木曾川河床で見られる塊状の赤色ジャスパー (写真の横=70cm)

鮮やかな色と不規則な形に加えて、ジャスパーには放射虫化石が見られないので、いわゆる放射虫チャートとは簡単に区別できます。放射虫化石が含まれないのは、放射虫が熱水環境を好まなかった (生息できなかった?) からと思われる。

北米カリフォルニアのサンフランシスコ近くに分布しているフランシスカン層群では、一番下に海底火山活動でできた枕状溶岩、その上に放射虫を含まない赤色ジャスパー、さらにその上に赤褐色の放射虫チャートという順で連続的に重なっている地層が見られます。この一連の地層は、当時の海底火山活動とそれに関連した熱水活動がだんだんと弱くなり放射虫が生息できるような海洋環境に変化していったことを物語っています。

日本では、層状チャートで褐色のものを慣習的に“赤色”チャートと呼ぶことがありますが、赤い色 (赤み) がジャスパーと比べると大きく違います。この色の違いは、写真 1 で中央の赤いジャスパーと右端近くの褐色 (“赤色”) の層状チャートを見比べると一目瞭然です。

赤色ジャスパーには不規則な形の白い石英が混在していることがよくあります。こうした石は、“ロース肉”に似た見かけになることがあります (写真 2)。石英の量が多くなり、白い石英の中に赤いチャートが少量入ったものは赤白珪石 (あかしろけいせき) と呼ばれ、断熱性が高いので耐火炉材に使われました。赤白珪石はスペースシャトルの耐熱石英タイルと同じような役割をしたと理解することができます。



写真 2 : “ロース肉”のような見かけの典型的なジャスパー (各務原市鷺沼, 写真の横=25cm)

**ボ**ラン  
**募**集

友の会では随時ボランティアを募集しています。

ニュースレターの発送、植物標本の整理など、一緒に活動しませんか?

ご希望の方は友の会事務局までお問合せください。

Eメール : hakubututomo@gmail.com

## 野外観察園 2023 夏

吉野奈津子

新聞でご覧になった方もいらっしゃるかもしれませんが、野外観察園のクロチクという竹に花が咲き、5月は見物の方で大賑わいでした。稈（かん）が黒いのでクロチクといい、出てきたばかりの時は緑色です。1年かけてだんだん黒くなっていきます。直径は2~3cmで観賞用や建材、竹細工に使われます。開花の後の様子ですが、花穂が出ている部分でまだ緑色の所もあり、7月になってたまに花を咲かせます。どうなっていくのか楽しみです。

1年ほど前から新入りのネコが出入りしていました。今までは目が合っただけで猛ダッシュで逃走、かなり警戒されていて、写真どころではありませんでした。先日久しぶりにご対面、温室の棚の上でお昼寝中でした。植物に隠れて私も全く気付いていなかったの、目が合った時には至近距離です。逃げ場がなかったこともあり、ネコさん完全にフリーズ状態。まな板の上に乗った心地だったのかもしれませんが。この一件から少し心を開いてくれたのか、よくその場所で昼寝をしています。写真は何度目かのご対面の時に撮りました。植木鉢は倒したら元どおりに直してくださいね。それだけ守っていただければいつでも歓迎ですよ。



昔からいる重鎮ネコさん



クロチク イネ科

*Phyllostachys nigra* (Lodd. ex Loud.) Munro var. *nigra*



新入りネコさん



クレオメ フウチョウソウ科

*Tarenaya hassleriana* (Chodat) Iltis

名古屋大学博物館友の会ニュースレター 2023年7月24日発行

名古屋大学博物館友の会 〒464-8601 名古屋市千種区不老町 名古屋大学博物館 気付

電話：052-789-5767（博物館事務室） F A X：052-789-5896（博物館事務室）

Eメール：hakubututomo@gmail.com アクセス：地下鉄名城線「名古屋大学」下車 2番出口

ホームページ：http://www.num.nagoya-u.ac.jp/fan

年会費 1000円（4/1~3/31） 10/1~3/31に入会した場合は500円（次年度は1000円）

家族会員制度あり（同居の家族1名まで年会費を免除）

<振込先> ゆうちょ銀行 口座番号：00800-8-166807 加入者名：名古屋大学博物館友の会

他銀行からの振り込み 店名〇八九（ゼロハチキユウ） 店番（089）当座 0166807